

平成 25 年度・学校関係者評価報告書

学校法人呉竹学園
呉竹鍼灸柔整専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人呉竹学園 呉竹鍼灸柔整専門学校 学校関係者評価委員会は、「平成 24 年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

(業団関係者)

- ・伊藤 昌芳 公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長
- ・吉田 充孝 社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長

(卒業生)

- ・吉田 達矢 バランスアップ鍼灸整骨院 院長 / 呉竹鍼灸柔整専門学校 呉竹会 会長
- ・戸畑 智秋 ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長
- ・三田 正樹 樹はりきゅう院 院長

(保護者)

- ・山本 浩之 在校生 保護者

(教職員)

- ・小林 賢次 呉竹鍼灸柔整専門学校 校長
- ・鈴木 俊三 呉竹鍼灸柔整専門学校 鍼灸マッサージ科・鍼灸科 科長
- ・杉山 直人 呉竹鍼灸柔整専門学校 柔道整復科 科長
- ・建石 泰三 呉竹鍼灸柔整専門学校 事務長

2. 平成 24 年度自己点検・自己評価における学校関係者評価

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目的・育人材像	<ul style="list-style-type: none">●創立者の建学の精神のもと、教育理念・目標を定め、社会ニーズに対応した医療人の育成に努力している。▲学生の多様化に対応できる環境作り、また学生の学習に対するモチベーションを維持向上させるための取り組みが一層求められる。▲保護者等のステークホルダーに対し、ホームページやパンフレット等を利用した積極的な情報開示、情報共有が必要である。	<ul style="list-style-type: none">○社会ニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充するとともに、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などを実施していく。○ステークホルダーに対し、学校への理解をより一層深めてもらうため、情報開示ガイドラインに沿ったホームページ等での学校情報の開示、保護者向けの学校情報誌の送付などに着手する。

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
2. 学校運営	<p>●運営方針及び事業計画が策定されており、また運営組織やその意志決定の過程も明らかになっている。</p> <p>▲業界や地域社会に対するコンプライアンス体制の整備のみに満足することなく、教職員への周知徹底、コンプライアンスに関する勉強会の実施など、持続的なコンプライアンスの推進が必要である。</p> <p>▲教員も臨床現場へ積極的に関与することで一層のレベルアップを図り、現場体験を踏まえた授業が行えるよう教育現場に還元してもらいたい。</p>	<p>○法令倫理に則った適切なコンプライアンス体制を構築し、それらを共通認識として全職員間で共有することで、法令遵守を徹底していく。</p> <p>○教育センターを設置し、教職員のFD活動を通じて、教職員個々のさらなるレベルアップを図っていく。また、附属施術等にて臨床力の強化を図る。</p>
3. 教育活動	<p>●国家試験合格率やこれまでの長年の実績から、呉竹鍼灸柔整専門学校における教育水準は高いと考える。</p> <p>▲一方で、より実践的な治療技術の獲得、治療家としての人間形成、モラルやモチベーションの問題、学生の習熟度など取り組むべき課題もある。対策の一例としては、業団や治療院が主催する各種講習会やセミナー、勉強会への積極的な参加、インターンシップ制度の導入、臨床教育の充実、授業の理解が遅れがちな学生への対応など、これまで以上に組織的な教育体制の整備が求められる。</p>	<p>○本校の学校教育においては、医療人としての確固たる基盤を形成するために、法令で定められた教育内容(医学知識、技術の獲得)に重点を置きながらも、業界、社会が求める応用力を持った臨床家を育成するために、既に実施している臨床教育に加えて、業団が主催する講習会への参加促進、企業や治療院の講師による特別授業の実施など、業団や企業等と連携したより実践的な技能を身につける教育に取り組んでいく。</p>
4. 学修成果	<p>●全国平均を上回る国家試験合格率が示すとおり、学修成果は高水準をキープしている。</p> <p>▲国家試験に合格するだけでは治療家とは言えない。卒後の研修制度のあり方を議論し、医療倫理、法令遵守といった観点からも卒後の教育を充実してもらいたい。</p> <p>▲退学の要因となる学習意欲の低下や成績不良に対する策として、入学時の早い段階から治療院見学などを通してモチベーションを高めることはできないか。</p> <p>▲卒業生へのアンケート調査を実施するなど、卒後の動向を把握し、調査で得られた情報を在校生へ提供してはどうか。校友会を活用する方法も模索する。</p>	<p>○引き続き国家試験全員合格を目指していく。</p> <p>○現在実施している卒前・卒後の臨床教育をさらに充実させ、医療人としてのキャリア形成に力を注いでいく。</p> <p>○補習授業や1年次からの臨床見学実習を通して、学習意欲の向上を図りながら退学率の低減に努める。</p> <p>○定期的に卒業生へのアンケート調査を実施し、卒後の動向、業界関係の情報収集に努めるとともに、それらの情報を在校生、保護者等に提供していく。</p>
5. 学生支援	<p>●就職サポート、奨学金制度、担任制度などさまざまな形で学生支援を行っている点は評価できる。</p> <p>▲学生の精神的なケアも含めて、健康面でのサポートをさらに充実してもらいたい。</p> <p>▲求人掲載されている企業・治療院の中には、コンプライアンスに違反するような企業・治療院も見受けられるので、学生が被害者にならないよう、求人掲載企業の選定が必要である。</p> <p>▲学生相談窓口の充実化、高校と連携した職業教育、保護者等への理解促進などが求められる。</p>	<p>○学生の精神面でのケアは、デリケートな問題ではあるが、教職員の対応力も含めて、学生個々の状況に応じて適切に対応していきたい。また、保護者との密な連携を図り、学校教育への理解を促進していく。</p> <p>○企業、治療院から求人申請があった場合には、企業・治療院等の正確な情報収集に努め、相互に不利益を来さないよう注意喚起していく。</p> <p>○高校ガイダンスの他、「仕事の学び場」にも参加し、高校との連携を図る。</p>

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
6. 教育環境	<p>●法令で定められている教育環境にあり、防災への意識も高く適切に管理されている。</p> <p>▲臨床教育の場となる附属施術所、特に柔道整復における施術所の活用方法を検討してもらいたい。</p> <p>▲高齢者、スポーツ選手など専門性が特に問われる学習環境の整備もお願いしたい。</p>	<p>○柔道整復における附属施術では、患者受入の体制は整備されているものの、臨床施設として改善点も残されており、学生および卒業生にとって、より価値の高い臨床施設となるよう努力していく。</p> <p>○超高齢社会に備え、介護備品等の整備を充実させる。</p> <p>○スポーツ障害、AKAなどをテーマにした特別授業や卒前臨床講習会を開催しているが、さらに充実したものとなるよう企画検討していく。</p>
7. 学生の募集と受け入れ	<p>●あはき・柔整養成施設の指導要領、専修学校各種学校の規定に則り、適切に学生募集が行われている。</p> <p>▲学校説明会では、教育成果を具体的に伝えることが必要である。</p> <p>▲少子化の課題も残るため、志願者の視点に立った学生募集活動の検討が必要である。</p>	<p>○学校説明会では、教育成果を含めた具体的な学校情報を提示することで学校への理解を促進するとともに、説明会でのプレゼンテーション強化を図っていく。</p> <p>○志願者視点に立った募集活動を行うために、志願者が求める説明、情報開示に努める。</p>
8. 財務	<p>●借入金がなく健全な経営により、安定した財務基盤となっている。</p> <p>▲厳しい学生募集の状況が続くことにより、財務基盤が弱体化する恐れもあるため、学生の安定供給と退学防止、経費節減等に一層力を入れてもらいたい。</p>	<p>○外部監査による健全な学校経営を維持するとともに、募集活動の強化、退学率の低減、経費節減に努める。</p>
9. 法令等の遵守	<p>●法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うとともに、それらの情報を公開している。</p> <p>▲コンプライアンス推進体制の強化が望まれる。</p>	<p>○法令遵守にあたっては、規定を整備し、全教職員間において周知徹底を図ることにより、コンプライアンスを推進する体制を早期に実現する。</p>
10. 社会貢献	<p>●地域社会と良好な関係が構築されており、学生のボランティア活動が実施されている。</p> <p>▲専門性を活かして、怪我の予防や健康に関する公開講座やセミナーを開催してはどうか。</p> <p>▲積極的に学生ボランティアを支援することにより、学生にも社会貢献の意識を啓発してはどうか。</p>	<p>○学校への理解促進、地域に対して開かれた学校を目標に、医療系専門学校ならではの公開講座の実施を検討している。</p> <p>○業界団体をはじめとするさまざまなボランティア活動の周知、支援を行っていく。</p>

3. 総評

上記10項目に対し、委員による評価の平均値は3.6（4段階評価）であったことから、呉竹鍼灸柔整専門学校は教育活動、学校運営の質は高い水準で維持されており、その長年に渡る教育実績は評価に値する。一方で、より実践的な臨床教育、学生の学力向上に対する取り組み、コンプライアンスの推進、情報開示、積極的なボランティア活動への参加などを念頭に、更なる教育の質の向上に努めていただき、今後の活動に大いに期待を寄せるものとする。

以上